

Pioneer Dj

DJミキサー

DJM-900NXS2

<http://pioneerdj.com/support/>

上記のPioneer DJサイトでは、困ったときのよくある質問やソフトウェアの情報など、より快適に製品をお使いいただくための各種情報やサービスを提供しております。

<http://rekordbox.com/>

rekordbox™の各種情報やサービスについては、上記の弊社ホームページをご覧ください。

取扱説明書

もくじ

本書の見かた

このたびは、Pioneer DJ 製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

この冊子と、本機に付属している「取扱説明書（クイックスタートガイド）」を必ずお読みください。両方とも、この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。

- 本書では、製品本体に表示されているチャンネル名、ボタン名、およびソフトウェア上のメニュー名などを、[] で囲んで記載しています。（例：[MASTER] チャンネル、[ON/OFF]、[File] メニュー）
- 本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様、およびハードウェアの外観と仕様は、開発途中のものであり、最終仕様と異なる場合がありますがご了承ください。
- 本書で説明している手順については、OS のバージョン、ウェブブラウザの設定などにより記載の動作と異なる場合がありますがご了承ください。

01 はじめに

本機の特長 3

02 ソフトウェアをインストールする

ドライバーソフトウェアをインストールする 4

03 各部の名称とはたらき

本体背面部 6

操作パネル 7

04 接続する

入力端子に接続する 9

出力端子に接続する 10

操作パネルに接続する 10

05 操作する

基本操作 11

応用操作 12

06 エフェクトの種類

SOUND COLOR FX の種類 15

BEAT FX の種類 15

07 設定を変更する

変更の手順 18

初期設定値に戻す 18

オートスタンバイ機能について 18

トークオーバー機能について 18

設定ユーティリティについて 18

ドライバーソフトウェアの最新情報を確認する 19

[Mixer Audio Output] のプルダウンメニュー一覧 20

設定項目一覧 20

08 その他

故障かな?と思ったら 21

ブロックダイヤグラム 23

保証とアフターサービス 24

商標および登録商標について 24

著作権についてのご注意 24

ソフトウェアのライセンスに関するお知らせ 24

はじめに

本機の特長

本機はディスコ/クラブシーンの世界標準である Pioneer DJ 製 DJM シリーズを継承した、プロ DJ 向けミキサーです。SOUND COLOR FX、BEAT FX、PRO DJ LINK など DJ パフォーマンスのための多彩な機能を備えるだけでなく、高音質・高信頼性設計、操作性の高いパネルレイアウトの採用、多様な機器への接続に対応することにより、すべての DJ のパフォーマンスを強力にサポートします。

HIGH SOUND QUALITY

すべてのデジタル・アナログ入出力において、徹底した音質の改善・向上を図っています。USB および SPD I/F のデジタルオーディオ音声は 96 kHz/24 bit ハイレゾ対応しています。また、アナログ音声に関しても、24 bit 高音質 A/D コンバーター、32 bit 高音質 D/A コンバーターにより原音に忠実な再生を行います。本機では DSP ミキシング処理を 96 kHz/64 bit で行なうことで解像度が高くワイドレンジで密度の高い生々しい音を実現し、クリアかつウォームでパワフルなクラブサウンドを体験できます。

EQ & FADER

クロスフェーダー・チャンネルフェーダーでは、ぐらつきのないスムーズな操作を実現するとともに、高い耐久性を実現しました。また、液体や粉塵によるフェーダー内部への影響も最小限に抑えています。クロスフェーダーにはスクラッチプレイに対応するため、独自開発の磁気方式のマグヴェルフェーダーを採用し、操作可能回数 1 000 万回以上の高い耐久性と細かな操作性を実現しました。本機では EQ CURVE と FADER CURVE を刷新したことにより、いままでも以上に思い通りの自然なミックスができます。

FX

本機は多彩な DJ パフォーマンスを実現する SOUND COLOR FX、BEAT FX、SEND/RETURN を搭載しています。SOUND COLOR FX : 6 種類のエフェクトを搭載しています。各チャンネルに配置された **[COLOR]** ツマミを回すだけでエフェクトが得られ、各チャンネルに入力された楽曲を好みの音質に調整したり、即興的なパフォーマンスができます。また、**[PARAMETER]** ツマミを調整することで、より多彩な表現を実現できます。BEAT FX : DJM シリーズで好評な BEAT EFFECT を継承し進化させました。タッチ操作で拍を直接選択したり、リニアにパラメーターを変化させることができる **[X-PAD]** を搭載し、直感的ですばやく確実なライブパフォーマンスが実現できます。また、エフェクトを加える周波数帯域を選択できる **[FX FREQUENCY]** ボタンを搭載し、従来以上に自由度の高い演奏が実現できます。SEND/RETURN : 独立した SEND/RETURN セクションを設け、外部エフェクター機器と内蔵 FX を同時使用することができます。従来通りに RMX シリーズのエフェクトを扱える INSERT 方式の SEND/RETURN だけでなく、RETURN 音声をチャンネルにアサインすることでオリジナルの音とエフェクト音を自在に混ぜ合わせることができる RETURN AUX 方式も選択することができ、より個性的な演奏が実現できます。さらにハードウェアの外部エフェクター機器だけでなく、USB1 本の簡単な接続でモバイルデバイス上の無数のエフェクトアプリケーションを扱うことが可能になります。

PRO DJ LINK

PRO DJ LINK 対応の Pioneer DJ 製 DJ プレーヤー (CDJ-2000XS2、XDJ-1000 など)、rekordbox がインストールされているコンピューター、および本機を LAN ケーブルを使って接続すると PRO DJ LINK 機能をお使いいただけます。

KUVO KUVO

KUVO (NXS-GW) が導入されているクラブで、PRO DJ LINK 対応のパイオニア製 DJ プレーヤー (CDJ-2000XS2、XDJ-1000 など)、および本機を LAN ケーブルを使って接続すると、KUVO サービスをご利用いただけます。

PLUG AND PLAY

本機はサウンドカードを 2 つ内蔵しているため、USB ケーブル 1 本でコンピューターと接続するだけで、面倒な設定をすることなく、すぐに DJ ソフトウェアを使った演奏を始められ、DJ 交代がスムーズに行えます。さらに、PRO DJ LINK 接続された CDJ-2000XS2 を用いることで、USB ケーブル 1 本の接続で DJ ソフトウェアの HID コントロールができます。CONTROL VINYL (レコード) または CONTROL CD を用いた DJ ソフトウェアのスクラッチ機能のコントロールもできます。

STANDARD LAYOUT

DJ ミキサーの世界標準である Pioneer DJ 製 DJM シリーズの操作パネルレイアウトを継承しています。シンプルでわかりやすい操作パネルレイアウトは、DJ パフォーマンスしやすだけでなく初めて使う DJ も迷わず操作できるので、クラブ常設機器として安心してお使いいただけます。

ソフトウェアをインストールする

ドライバーソフトウェアをインストールする

本ドライバーソフトウェアは、コンピューターからの音声を入力/出力するための専用ドライバーソフトウェアです。本機を Windows または Mac OS がインストールされているコンピューターに接続してお使いになるときは、あらかじめコンピューターにドライバーソフトウェアをインストールしてください。

ソフトウェア使用許諾契約書

このソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約」といいます）は、お客様と Pioneer DJ 株式会社（以下「当社」といいます）との間における、DJ 機器用ソフトウェア（以下「本ソフトウェア」といいます）の使用に関する事項を定めるものです。本ソフトウェアをインストールし、あるいはご利用になるにあたっては、必ず以下の条項をよくお読み下さい。お客様が本ソフトウェアをご利用になった場合は、本契約に同意されたものとします。もし本契約に同意されない場合には、本ソフトウェアのインストール及びご利用をおやめ下さい。

（使用許諾）

本契約の内容に従うことを条件として、お客様は、本ソフトウェアを一台のパーソナル・コンピュータ又は携帯端末にインストールして使用することができます。

（制限事項）

お客様は、本ソフトウェアの複製物を作成しあるいは配布し、またはネットワークを通じてあるいは一台のコンピュータから別のコンピュータに送信してはなりません。また、お客様は、本ソフトウェアの改変、販売、貸与、譲渡、転売、本ソフトウェアの二次的著作物の頒布又は作成等を行うことはできず、さらに、逆コンパイル、リバース・エンジニアリング、逆アセンブルし、その他、人間の覚知可能な形態に変更することもできません。

（著作権等）

本ソフトウェアに関する著作権その他一切の知的財産権は、当社あるいはその関連会社に帰属します。本ソフトウェアは、著作権法及び国際条約の規定により保護されています。

（保証及び技術サポートの否認）

本ソフトウェア及びそれに付随する一切の資料等は、あくまで「現状のまま」提供されます。当社は、お客様や第三者に対して、これらの商品性、特定目的への適合性、他人の権利を侵害しないこと、その他一切の事項について保証せず、また、これらに対する技術サポートを行うこと等も保証しません。なお、国や地域によっては強行法規によってかかる保証の否認が認められないことがありますので、その場合には、かかる保証の否認は適用されないことがあります。また、お客様の権利は、国や地域によっても異なり得ます。

（責任制限）

当社、その他本ソフトウェアの供給者は、お客様が本ソフトウェア及びこれに付随する一切の資料を使用したこと又は使用できなかったことから生じる一切の損害（利益の逸失、ビジネスの中断、情報の消失・毀損など）による損害を含みますが、これらに限定されません）に関しては、たとえ当社が、そのような損害が生じる可能性を知らされていた場合であったとしても、一切責任を負いません。国や地域によっては強行法規によって付随的又は間接損害に対する責任の制限が認められないことがありますので、その場合には、かかる責任制限は適用されないことがあります。なお、いかなる場合においても、本ソフトウェアに関する当社またはその子会社の責任は、お客様が当社またはその子会社に対して支払った金額を超えないものとします。かかる保証の否認や責任制限は、お客様と当社との間の取り決めにおける基本的な要素です。

（輸出規制法令の遵守）

お客様は、アメリカ合衆国の法令及び本ソフトウェアを取得された国の法令が認めている場合を除き、本ソフトウェアを使用または輸出もしくは再輸出することはできません。また、本ソフトウェアを、次のいずれの者に対しても、輸出または再輸出することはできません。
(a) アメリカ合衆国の通商禁止国

(b) アメリカ合衆国財務省の禁止顧客リスト (Specially Designated Nationals List) 上の一切の者、及びアメリカ合衆国商務省の禁止顧客リスト (Denied Person's List or Entity List) 上の一切の者
お客様は、本ソフトウェアを使用することにより、上記 (a) に該当する国に居住しておらず、また、上記 (b) のリストに掲載されていないことを表明および保証するものとします。また、お客様は、本ソフトウェアをアメリカ合衆国の法令にて禁止されるいかなる目的（核兵器、ミサイル、化学兵器、または細菌兵器を含みますが、これに限定されません）にも使用しないことに同意されたものとします。

（準拠法）

本契約は、日本国の法令に準拠し、これに基づいて解釈されるものとします。本契約は、本ソフトウェアの使用について、お客様と当社の取り決めのすべてを記載するものであり、本件に関する従前のあらゆる合意（それが口頭でなされたか文書によりなされたかを問いません）に優先して適用されます。本契約に関連して紛争が生じた場合は、東京地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とします。

インストールについてのご注意

- ドライバーソフトウェアをインストールする前に、本機の電源スイッチを切り、本機とコンピューターを接続している USB ケーブルを取り外してください。
- ドライバーソフトウェアをコンピューターにインストールしない本機をコンピューターに接続すると、お客様の環境によってはコンピューターにエラーが発生することがあります。
- ドライバーソフトウェアのインストールを途中で中止したときは、以下の手順に沿ってはじめてインストールをやり直してください。
- 本機の専用ドライバーソフトウェアをインストールする前に、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
- ドライバーソフトウェアをインストールする前に、コンピューター上で他に作業中のプログラムがあれば、すべて終了させてください。
- ドライバーソフトウェアは、以下の OS に対応しています。

対応 OS

Mac OS X: 10.11, 10.10, 10.9, 10.8 (最新アップデート)	○
Windows® 10 (最新サービスパック)	32 ビット版 ○ 64 ビット版 ○
Windows® 8/8.1 (最新サービスパック)	32 ビット版 ○ 64 ビット版 ○
Windows Pro® 8/8.1 (最新サービスパック)	32 ビット版 ○ 64 ビット版 ○
Windows® 7 Home Premium/Professional/Ultimate (最新サービスパック)	32 ビット版 ○ 64 ビット版 ○

ドライバーソフトウェアの最新情報を確認する

本機の専用ドライバーソフトウェアの最新情報については、下記の Pioneer DJ サイトを参照してください。
<http://www.pioneerdj.com/>

ドライバーソフトウェアを入手する

- コンピューターでウェブブラウザを起動し、下記の Pioneer DJ サイトにアクセスする
<http://www.pioneerdj.com/>
- [Support] アイコンをクリックする
- [ソフトウェア&ファームウェアのアップデート] アイコンをクリックする
- [Mixer] カテゴリ内の [DJM-900NXS2] アイコンをクリックする
- [Drivers] をクリックしたあと、ダウンロードページから最新のドライバーソフトウェアをダウンロードする
 - Windows 用または Mac 用のドライバーのいずれかをダウンロードページからダウンロードしてください。

インストール手順 (Windows)

ドライバーソフトウェアをインストールする前に「インストールについてのご注意」をよくお読みください。

- ドライバーソフトウェアをインストール、アンインストールするには、コンピューターの管理者権限が必要です。コンピューターの管理者に設定されているユーザーでログオンしてからインストールしてください。

1 「ドライバーソフトウェアを入手する」でダウンロードした Windows 用ファイル (DJM-900NXS2_X.XXX.exe) をダブルクリックする

ドライバーソフトウェアのインストール画面が表示されます。

2 「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] にチェックを入れてから [OK] をクリックする

「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意いただけないときは、[キャンセル] をクリックして、インストールを中止してください。

3 画面の指示に従ってインストールする

インストールの途中で [Windows セキュリティ] 画面が表示されることがありますが、[このドライバーソフトウェアをインストールします] をクリックしてインストールを続行してください。

- インストールプログラムが終了すると終了メッセージが表示されます。

インストール手順 (Mac OS X)

ドライバーソフトウェアをインストールする前に「インストールについてのご注意」をよくお読みください。

- ドライバーソフトウェアをインストール、アンインストールするには、コンピューターの管理者権限が必要です。コンピューターの管理者の「名前」と「パスワード」をあらかじめご用意ください。

1 「ドライバーソフトウェアを入手する」でダウンロードした Mac 用ファイル (DJM-900NXS2_M_X.X.X.dmg) をダブルクリックする

2 [DJM-900NXS2_AudioDriver.pkg] をダブルクリックする

ドライバーソフトウェアのインストール画面が表示されます。

3 画面の内容を確認して [続ける] をクリックする

4 使用許諾契約画面が表示されたら、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、[続行する] をクリックする

5 「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] をクリックする

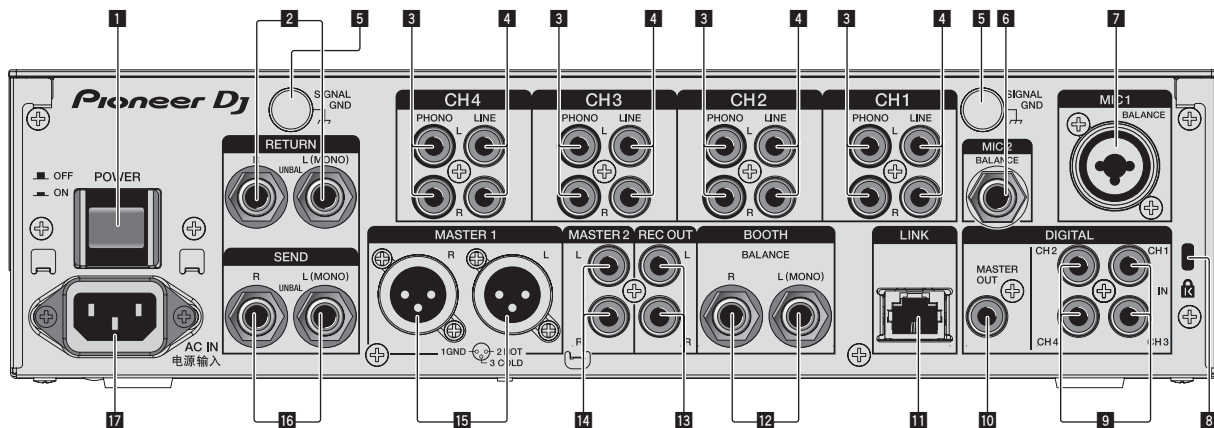
「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意いただけないときは、[同意しない] をクリックして、インストールを中止してください。

6 画面の指示に従ってインストールする

- インストールを途中で中止するときは [キャンセル] をクリックしてください。

各部の名称とはたらき

本体背面部



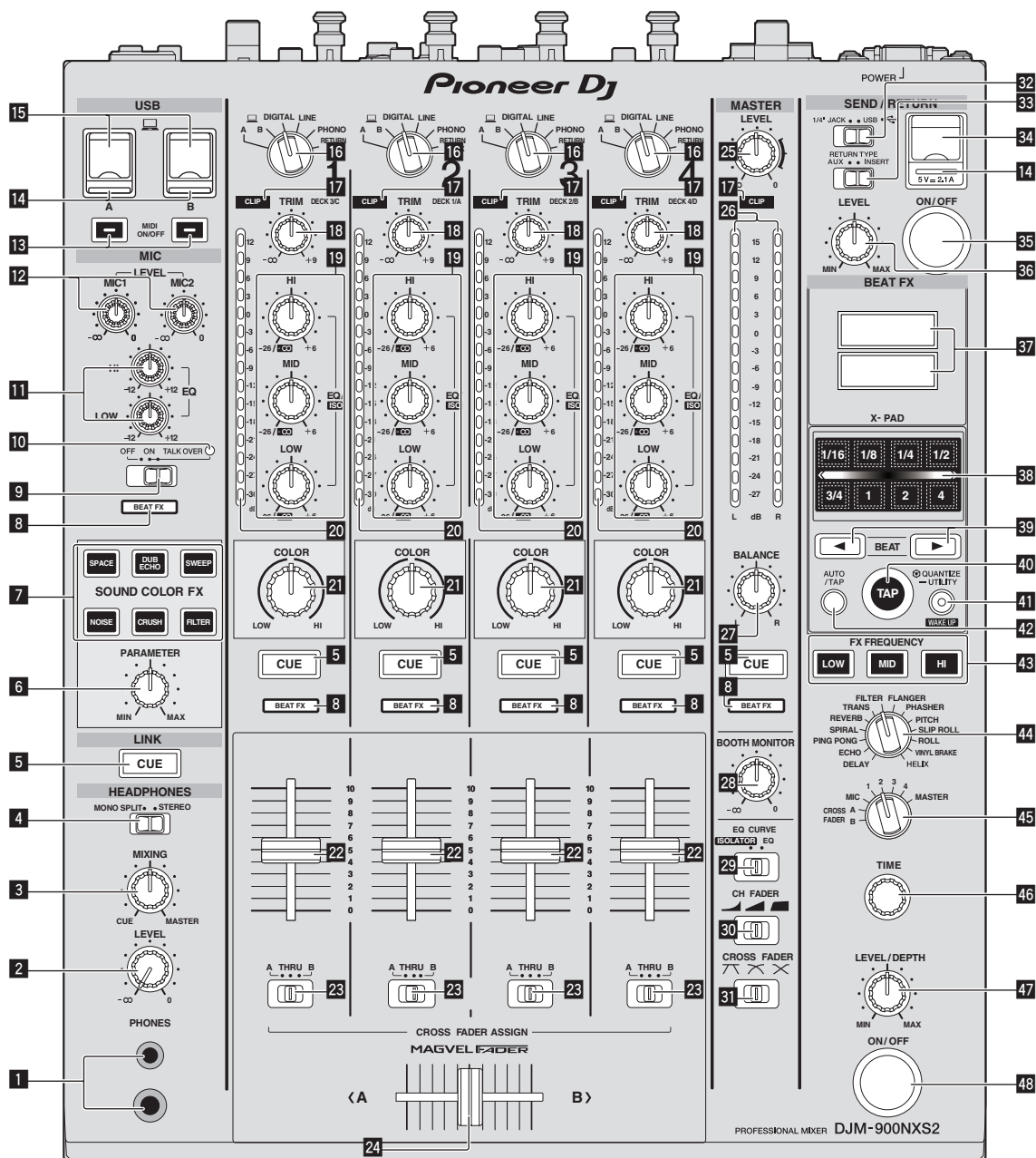
- 1 POWER ボタン (11 ページ)**
本機の電源をオン / オフします。
- 2 RETURN 端子 (10 ページ)**
外部エフェクターの出力端子と接続します。[L (MONO)] だけに接続すると、[L (MONO)] に入力される音声が [R] にも入力されます。
- 3 PHONO 端子 (9 ページ)**
フォノレベル (MM カートリッジ用) の出力機器と接続します。ラインレベルの信号を入力しないでください。
[PHONO] 端子に機器を接続するときは、端子に差し込まれているショートピンプラグを取り外してください。
このショートピンプラグは、[PHONO] 端子に何も接続しないとき外部ノイズをカットするために差し込んで使います。
- 4 LINE 端子 (9 ページ)**
DJ プレーヤーやラインレベルの出力機器と接続します。
- 5 SIGNAL GND 端子 (9 ページ)**
アナログプレーヤーのアース線と接続します。アナログプレーヤー接続時の雑音低減を図ります。
- 6 MIC2 端子 (9 ページ)**
マイクを接続します。
- 7 MIC1 端子 (9 ページ)**
マイクを接続します。
- 8 ケンジントンロック装着用穴**
- 9 DIGITAL IN 端子 (9 ページ)**
DJ プレーヤーなどのデジタル同軸出力端子と接続します。出力信号のサンプリング周波数が切り変わったときに、音声が一瞬とぎれることがあります。
- 10 DIGITAL MASTER OUT 端子 (10 ページ)**
プリアンプなどのデジタル端子と接続します。マスターチャンネルの音声を SPDIF フォーマットで出力します。アナログ入力端子に誤って接続しないようにご注意ください。
- 11 LINK 端子 (9 ページ)**
Pioneer DJ 製 DJ プレーヤーの LINK 端子、または rekordbox がインストールされているコンピューターの LAN 端子と接続します (PRO DJ LINK)。PRO DJ LINK に NXS-GW を接続することで、「KUVO」サービスをご利用いただけます。
複数の機器と接続するときはスイッチングハブ (市販) を使って接続してください。
100Base-TX 対応のスイッチングハブをお使いください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。
- 12 BOOTH 端子 (10 ページ)**
ブースモニター用出力端子です。
[L (MONO)] だけに接続すると、モノラル音声を出力します。
- 13 REC OUT 端子 (10 ページ)**
録音用出力端子です。
- 14 MASTER2 端子 (10 ページ)**
パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。
- 15 MASTER1 端子 (10 ページ)**
パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。
必ずバランス出力としてお使いください。他製品の電源コードを誤って挿入しないようにご注意ください。
- 16 SEND 端子 (10 ページ)**
外部エフェクターの入力端子と接続します。[L (MONO)] だけに接続すると、モノラル音声を出力します。
- 17 AC IN**
付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。必ず付属の電源コードをお使いください。

⚠ 注意

製品の仕様により、本体部やリモコン (付属の場合) のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなくなる場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ (遮断装置) をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ (遮断装置) に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

⚠ 警告

ショートピンプラグは幼児の手の届くところに置かないでください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。



- 1 PHONES 端子 (11 ページ)**
ヘッドホンを接続します。
1/4" ステレオフィオンプラグと 3.5 mm ステレオミニプラグに対応しています。
- 2 LEVEL ツマミ (11 ページ)**
ヘッドホンから出力される音声レベルを調整します。
- 3 MIXING ツマミ (11 ページ)**
[CUE] ボタンが押してあるチャンネルの音声と [MASTER] チャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。
- 4 MONO SPLIT, STEREO 切替スイッチ (11 ページ)**
ヘッドホンから出力されるモニター音声の振り分け方法を切り換えます。
- 5 CUE ボタン (11 ページ)**
モニターしたいチャンネルの [CUE] ボタンを押します。
- 6 PARAMETER ツマミ (13 ページ)**
SOUND COLOR FX のパラメーターを調整します。
- 7 SOUND COLOR FX ボタン (13 ページ)**
SOUND COLOR FX をオン/オフします。
- 8 エフェクトチャンネル切替インジケーター (13 ページ)**
エフェクトチャンネル切替スイッチで選択されているチャンネルの [BEAT FX] インジケーターが点灯します。
- 9 OFF, ON, TALK OVER 切替スイッチ (11 ページ)**
マイクをオン/オフします。
- 10 マイクインジケーター (11 ページ)**
- 11 EQ (HI, LOW) ツマミ (11 ページ)**
[MIC1] チャンネルおよび [MIC2] チャンネルの音質を調整します。

- 12 MIC LEVEL ツマミ (11 ページ)**
[MIC1] チャンネルおよび [MIC2] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。
- 13 MIDI ON/OFF ボタン (14 ページ)**
MIDI をオン / オフします。
- 14 USB 接続インジケータ (10 ページ)**
— USB 端子：コンピューターを接続すると点灯します。コンピューターにドライバソフトウェアがインストールされていないときは点滅します。
— モバイルデバイス接続用端子 (USB 端子)：対応したモバイルデバイスを接続すると点灯します。非対応デバイスを接続すると点滅します。
- 15 USB 端子 (10 ページ)**
コンピューターを接続します。
- 16 入力切替スイッチ (11 ページ)**
本機に接続している機器の中から、各チャンネルの入力ソースを切り換えます。
- 17 CLIP インジケータ (11 ページ)**
• 各チャンネル：チャンネルに過大音量の音声が入力されたときに点灯します。
• マスター：[MASTER1] 端子および [MASTER2] 端子から過大音量の音声が入力されたときに点灯します。
- 18 TRIM ツマミ (11 ページ)**
各チャンネルに入力される音声レベルを調整します。
- 19 EQ/ISO (HI, MID, LOW) ツマミ (11 ページ)**
各チャンネルの音質を調整します。
- 20 チャンネルレベルインジケータ (11 ページ)**
各チャンネルのチャンネルフェーダー通過前の音声レベルを表示します。
- 21 COLOR ツマミ (13 ページ)**
各チャンネルの SOUND COLOR FX のパラメーターを変化させます。
- 22 チャンネルフェーダー (11 ページ)**
各チャンネルから出力される音声レベルを調整します。
- 23 CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B) 切替スイッチ (11 ページ)**
チャンネルの出力先をクロスフェーダーの [A] 側または [B] 側に割り当てます。
- 24 クロスフェーダー (11 ページ)**
クロスフェーダーアサインスイッチによって割り当てられた音声を、[CROSS FADER] (クロスフェーダーカーブ切替スイッチ) で選んでいるカーブ特性に従って出力します。
- 25 MASTER LEVEL ツマミ (11 ページ)**
[MASTER1] 端子および [MASTER2] 端子から音声が入力されます。
- 26 マスターレベルインジケータ (11 ページ)**
[MASTER1] 端子、[MASTER2] 端子、および [DIGITAL MASTER OUT] 端子から出力される音声レベルを表示します。
- 27 BALANCE ツマミ (12 ページ)**
[MASTER1] 端子などから出力される音声の左右のバランスを調整します。
- 28 BOOTH MONITOR ツマミ (12 ページ)**
[BOOTH] 端子から出力される音声レベルを調整します。
- 29 EQ CURVE (ISOLATOR, EQ) 切替スイッチ (11 ページ)**
[EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ツマミの機能を切り換えます。
- 30 CH FADER (, , ) 切替スイッチ (11 ページ)**
チャンネルフェーダーのカーブ特性を切り換えます。
- 31 CROSS FADER (, , ) 切替スイッチ (11 ページ)**
クロスフェーダーのカーブ特性を切り換えます。
- 32 SEND/RETURN (1/4" JACK, ) 切替スイッチ (14 ページ)**
SEND/RETURN チャンネルへの入力ソースを切り換えます。本機背面の [SEND/RETURN] 端子に接続されている機器、または、操作パネル上のモバイルデバイス接続用端子に接続されている機器のどちらかを選択します。
- 33 RETURN TYPE (AUX, INSERT) 切替スイッチ (14 ページ)**
SEND/RETURN の方式を選択します。
- 34 モバイルデバイス接続用端子 (USB 端子) (10 ページ)**
モバイルデバイスを接続します。
- 35 SEND/RETURN ON/OFF ボタン (14 ページ)**
SEND/RETURN をオン / オフします。
- 36 SEND/RETURN LEVEL ツマミ (14 ページ)**
SEND/RETURN の音声レベルを調節します。
- 37 本体表示部 (13 ページ)**
エフェクト名、BPM、エフェクトパラメーターなどを表示します。
- 38 X-PAD (13 ページ)**
触れている間、BEAT FX がオンになります。また、触る場所によってパラメーターを調節できます。
- 39 BEAT ,  ボタン (13 ページ)**
エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定します。
- 40 TAP ボタン (13 ページ)**
BPM の測定モードが [TAP] のとき、ボタンを指でたたいて手動で BPM を入力します。
- 41 QUANTIZE (UTILITY, WAKE UP) ボタン (12 ページ)**
— **QUANTIZE**：BEAT FX で QUANTIZE 機能がオンになっているとき、再生中のトラックのテンポとずれることなく音声をエフェクトを加えます。
— **UTILITY**：[UTILITY] 画面を表示します。
— **WAKE UP**：スタンバイ状態を解除します。
- 42 AUTO/TAP ボタン (13 ページ)**
BPM の測定モードを切り換えます。
- 43 FX FREQUENCY ボタン (13 ページ)**
BEAT FX をかける音域を選びます。点灯しているボタンの音域に BEAT FX がかけられます。
- 44 ビートエフェクト切替スイッチ (13 ページ)**
BEAT FX のエフェクトの種類を切り換えます。
- 45 エフェクトチャンネル切替スイッチ (13 ページ)**
BEAT FX および SEND/RETURN を加えるチャンネルを切り換えます。
- 46 TIME ツマミ (13 ページ)**
BEAT FX の時間的パラメーターを調節します。
- 47 LEVEL/DEPTH ツマミ (13 ページ)**
BEAT FX の量的パラメーターを調整します。
- 48 ビートエフェクト ON/OFF ボタン (13 ページ)**
BEAT FX をオン / オフします。

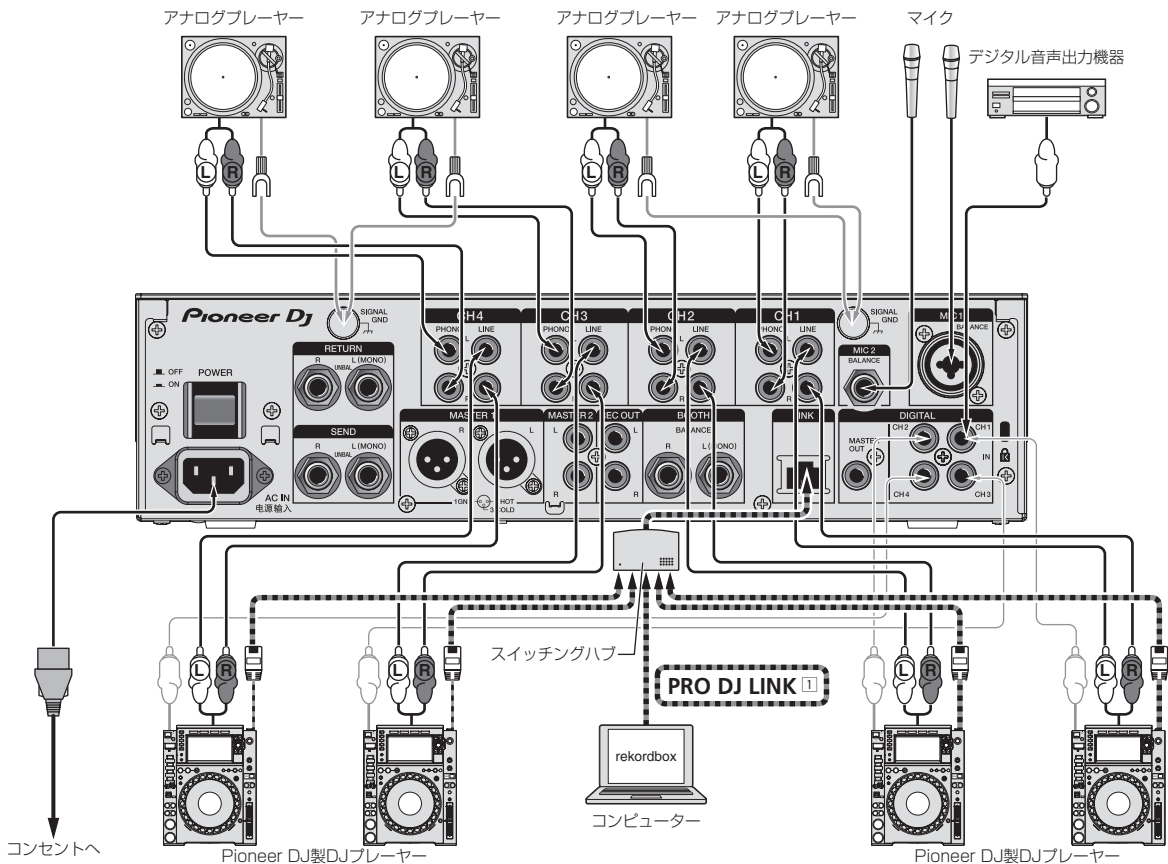
チャンネルフェーダーツマミおよびクロスフェーダーツマミは無理に引き抜かないでください。簡単に引き抜けない構造になっているため、ツマミが壊れる可能性があります。

接続する

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。
必ず付属の電源コードをお使いください。
接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

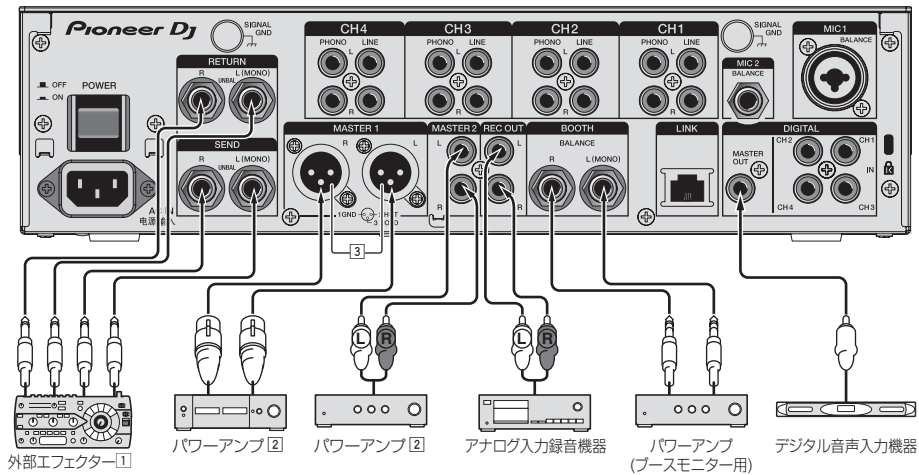
- 本機とコンピューターは USB ケーブルで直接接続してください。
- USB ケーブルは USB2.0 に準拠したものをお使いください。
- USB ハブは使えません。
- LAN ケーブルを使って接続するときは、STP (CAT5e シールドケーブル) をお使いください。
- PRO DJ LINK を使って音楽ファイルまたは情報を共有しているときは、LAN ケーブルを取り外さないでください。

入力端子に接続する



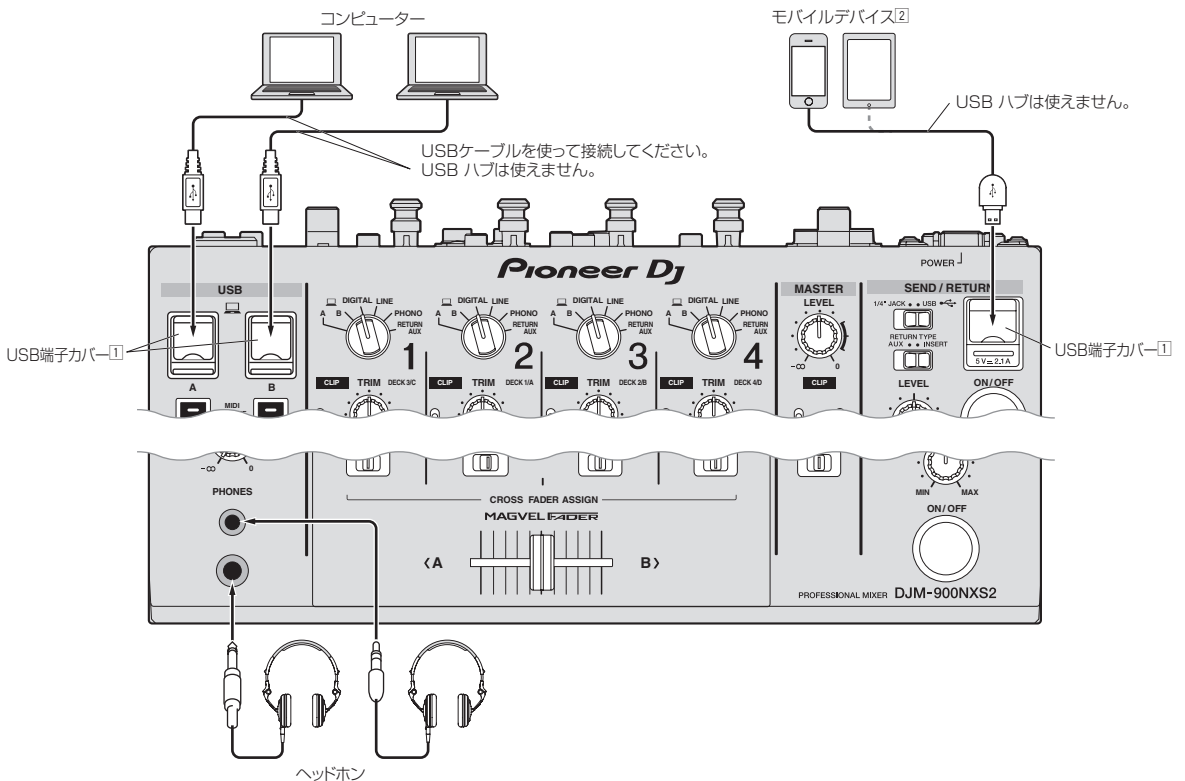
- PRO DJ LINK については、12 ページの「PRO DJ LINK について」をご覧ください。
PRO DJ LINK に NXS-GW を接続することで、「KUVO」サービスをご利用いただけます。
「KUVO」をご利用になるときは、以下の URL より接続方法および利用方法をご確認のうえご利用ください。
http://kuvo.com/kuvoweb/docs/configuration_guide/ConfigurationGuide.pdf

出力端子に接続する



- ① 外部エフェクターは [RETURN] 端子 (入力端子) にも接続してください。
- ② [MASTER1] 端子は必ずバランス出力としてお使いください。XLR-RCA 変換ケーブル (変換アダプター) などを使って、アンバランス入力 (RCA 等) へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生する場合があります。アンバランス入力 (RCA 等) への接続には [MASTER2] 端子をお使いください。
- ③ [MASTER1] 端子に他製品の電源コードを誤って挿入しないようご注意ください。

操作パネルに接続する



- ① USB 端子カバーを強く押ししたり、引っ張ったりしないでください。破損することがあります。
- ② モバイルデバイスを接続するときは、モバイルデバイス付属のケーブルをお使いください。対応モバイルデバイスは、下記の Pioneer DJ サイトを参照してください。
<http://pioneerdj.com/support/>

操作する

基本操作


音声を出力する

1 [POWER] ボタンを押す

本機の電源をオンにします。

2 入力切換スイッチを切り換える

本機に接続している機器の中から、各チャンネルの入力ソースを選びます。

- [ A B] : [USB] 端子に接続しているコンピューターの音声を選びます。
- [DIGITAL] : [DIGITAL] 端子に接続している DJ プレーヤーを選びます。
- [LINE] : [LINE] 端子に接続しているカセットデッキや CD プレーヤーを選びます。
- [PHONO] : [PHONO] 端子に接続しているアナログプレーヤーを選びます。
- [RETURN AUX] : [SEND/RETURN] の [RETURN] の音声を選びます。
- [RETURN AUX] を使うときは、[SEND/RETURN] の [RETURN TYPE] で [AUX] を選択します。
- [SEND/RETURN] を使うときは、14 ページの「SEND/RETURN 機能を使う」をご覧ください。

3 [TRIM] ツマミを回す

各チャンネルに入力される音声レベルを調整します。

各チャンネルに音声が入力されているときは、チャンネルレベルインジケータが点灯します。

- [CLIP] インジケータが点滅している場合は、消灯するまで [TRIM] ツマミを調整します。
 - 点滅: これ以上大きな音を入力すると、音が歪みます。[CLIP] インジケータが点滅しないレベルまで [TRIM] ツマミを調整してください。
 - 高速点滅: 入力の音が歪んでいます。[CLIP] インジケータが点滅しないレベルまで [TRIM] ツマミを調整してください。

4 チャンネルフェーダーを奥側に動かす

各チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

5 [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを切り換える

各チャンネルの出力先を切り換えます。

- [A] : クロスフェーダーの [A] (左) 側に割り当てます。
- [B] : クロスフェーダーの [B] (右) 側に割り当てます。
- [THRU] : クロスフェーダーを使わないときに選びます (クロスフェーダーは通過しません)。

6 クロスフェーダーを動かす

[CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切換スイッチを [THRU] に設定しているときは、この操作は必要ありません。

7 [MASTER LEVEL] ツマミを回す

[MASTER1] 端子、[MASTER2] 端子、[DIGITAL MASTER OUT] 端子から音声が出力されます。

マスターレベルインジケータが点灯します。

音質を調整する

1 [EQ CURVE (ISOLATOR, EQ)] 切換スイッチを切り換える

- [ISOLATOR] : アイソレーターとして機能します。
- [EQ] : イコライザーとして機能します。

2 各チャンネルの [EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ツマミを回す

各ツマミで調整できる音域は以下のとおりです。

- [HI] : -26 dB ~ +6 dB (30 kHz)
- [MID] : -26 dB ~ +6 dB (1 kHz)
- [LOW] : -26 dB ~ +6 dB (20 Hz)

ヘッドホンで音声をモニターする

1 [PHONES] 端子にヘッドホンを接続する

2 モニターしたいチャンネルの [CUE] ボタンを押す

3 [MONO SPLIT, STEREO] 切換スイッチを切り換える

- [MONO SPLIT] : ヘッドホン出力の左チャンネルから [MASTER] チャンネル以外の [CUE] ボタンが押してあるチャンネルの音声、右チャンネルから [MASTER] チャンネルの音声が出力されます。
- [STEREO] : [CUE] ボタンが押してあるチャンネルの音声ヘッドホンからステレオ音声で出力されます。

4 [MIXING] ツマミを回す

[CUE] ボタンが押してあるチャンネルの音声と [MASTER] チャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。

5 [HEADPHONES] の [LEVEL] ツマミを回す




[CUE] ボタンが押してあるチャンネルの音声ヘッドホンから出力されます。

- [CUE] ボタンをふたたび押すと、モニターが解除されます。

フェーダーカーブを切り換える




❖ チャンネルフェーダーのカーブ特性を選ぶ

[CH FADER (, ,)] 切換スイッチを切り換える

- [] : 奥側で急峻に立ち上がるカーブになります。
- [] : 徐々に立ち上がるカーブになります (チャンネルフェーダーが手前側から離れると音声が徐々に大きくなります)。
- [] : 手前で急峻に立ち上がるカーブになります。

❖ クロスフェーダーのカーブ特性を選ぶ

[CROSS FADER (, ,)] 切換スイッチを切り換える

- [] : 急峻に立ち上がるカーブになります (クロスフェーダーが [A] 側の端から離れると、すぐに [B] 側の音声出力されます)。
- [] : 上下2つの中間のカーブになります。
- [] : 徐々に立ち上がるカーブになります (クロスフェーダーが [A] 側の端から離れると、[B] 側の音声が徐々に大きくなり、[A] 側の音声が徐々に小さくなります)。

マイクを使う

1 [MIC1] 端子または [MIC2] 端子にマイクを接続する

2 [OFF, ON, TALK OVER] 切換スイッチを [ON] または [TALK OVER] に設定する

- [ON] : インジケータが点灯します。
- [TALK OVER] : インジケータが点滅します。
- [TALK OVER] に設定すると、マイクに -10 dB 以上の音声が入力されたとき [MIC] チャンネル以外の音声が 18 dB (初期設定値) 減衰します。

- [TALK OVER] の音声減衰レベルは [UTILITY] 画面で変更できます。変更方法については、18 ページの「設定を変更する」をご覧ください。
- トークオーバーモードは、ノーマルモードとアドバンスドモードに切り換えられます。変更方法については、18 ページの「設定を変更する」をご覧ください。

3 [MIC1 LEVEL] ツマミまたは [MIC2 LEVEL] ツマミを回す [MIC] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

- 右に回しすぎると大音量で音声が出力されますのでご注意ください。

4 マイクに音声を入力する

❖ 音質を調整する

[MIC] チャンネルの [EQ (HI, LOW)] ツマミを回す

各ツマミで調整できる音域は以下のとおりです。

- [HI] : - 12 dB ~ + 12 dB (10 kHz)
- [LOW] : - 12 dB ~ + 12 dB (100 Hz)

音声の左右バランスを調整する

[MASTER1] 端子、[MASTER2] 端子、[BOOTH] 端子、[REC OUT] 端子、[PHONES] 端子、[DIGITAL MASTER OUT] 端子、および [USB] 端子から出力される音声の左右のバランスを調整できます。

- [USB] 端子から出力される音声の左右バランスは、設定ユーティリティの [Mixer Audio Output] で [MIX (REC OUT)] を選んでいるときだけ調整することができます。

[BALANCE] ツマミを回す

[BALANCE] ツマミを回す方向と位置によって音声の左右のバランスが変化します。

- 右に回しきるとステレオ音声の右側音声だけ出力されます。左に回しきるとステレオ音声の左側音声だけ出力されます。

[BOOTH] 端子から音声出力する

[BOOTH MONITOR] ツマミを回す

[BOOTH] 端子から出力される音声レベルを調整します。

応用操作

PRO DJ LINK について

PRO DJ LINK 対応の Pioneer DJ 製 DJ プレーヤー (CDJ-2000NXS2、XDJ-1000 など)、rekordbox がインストールされているコンピューター、および本機を LAN ケーブルを使って接続すると以下の PRO DJ LINK 機能をお使いいただけます。

PRO DJ LINK 機能については、DJ プレーヤーの取扱説明書および rekordbox の操作説明書もあわせてご覧ください。

接続の仕方については、9 ページの「入力端子に接続する」をご覧ください。

- スイッチングハブを使って接続すると、DJ プレーヤーは最大 4 台まで、コンピューターは最大 2 台まで接続できます。
- 100Base-TX 対応のスイッチングハブをお使いください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。
- DJ プレーヤーのプレーヤー番号は、音声ケーブルを接続したチャンネルと同じ番号に設定してください。

❖ QUANTIZE

rekordbox により解析された楽曲を使うと、ラフに [BEAT FX] の [ON/OFF] ボタンを押したり [X-PAD] に触ったりしてもオンビートとなります。

❖ LINK MONITOR

コンピューターに保存されている rekordbox の音楽ファイルを、ヘッドホンで素早くモニターできます。

❖ STATUS INFORMATION

接続しているチャンネルの状態 (オンエア状況やチャンネル番号など) を DJ プレーヤーに知らせます。

QUANTIZE 機能を使う

rekordbox で解析された楽曲の GRID 情報をもとに、再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトを加えることができます。PRO DJ LINK で QUANTIZE 機能を使う場合は、あらかじめ本機と PRO DJ LINK 対応の Pioneer DJ 製 DJ プレーヤーを接続してください。接続の仕方については、9 ページの「入力端子に接続する」をご覧ください。

また、QUANTIZE 機能を使うためには、事前に rekordbox で音楽ファイルを解析する必要があります。rekordbox で音楽ファイルを解析する方法については、rekordbox の操作説明書もあわせてご覧ください。

- CDJ-2000nexus と組み合わせて使うときは、ファームウェアのバージョンを 1.02 以降にアップデートしてからお使いください。
- CDJ-2000、CDJ-900 と組み合わせて使うときは、ファームウェアのバージョンを 4.0 以降にアップデートしてからお使いください。

1 [QUANTIZE] ボタンを押す

QUANTIZE 機能をオンにします。

QUANTIZE 機能をオンした状態で、DJ プレーヤーから GRID 情報を正しく受信し、QUANTIZE 機能が使用可能なときは、本機の本体表示部の [QUANTIZE] が点灯します。GRID 情報を正しく受信できないときは [QUANTIZE] が点滅します。QUANTIZE 機能をオフした状態では GRID 情報の受信状態に関わらず [QUANTIZE] は消灯します。

- DJ プレーヤーの再生状態 (オフエア、スクラッチ中、リバーズ再生中など) によっては GRID 情報が受け取れないことがあります。

2 [BEAT FX] の [ON/OFF] ボタンを押す、または [X-PAD] に触れる

再生中のトラックのテンポとずれることなく音声にエフェクトが加わります。

- ふたたび [QUANTIZE] ボタンを押すと、QUANTIZE 機能がオフになります。

LINK MONITOR 機能を使う

- あらかじめrekordboxの[ファイル]>[環境設定]>[オーディオ]で[PIONEER DJ ミキサーの「LINK MONITOR」機能を使用する]にチェックを入れてください。rekordboxの操作説明書もあわせてご覧ください。

1 [PHONES] 端子にヘッドホンを接続する

2 rekordbox がインストールされているコンピューターを接続する

接続の仕方については、9 ページの「入力端子に接続する」をご覧ください。

3 rekordbox でモニターしたい楽曲を選ぶ

4 [LINK] の [CUE] ボタンを押す

rekordbox で選んだ楽曲がヘッドホンから出力されます。

- [CUE] ボタンをふたたび押すと、モニターが解除されます。
- 「ヘッドホンで音声をモニターする」(手順 3 ~ 手順 5) と同じ操作をすることができます。

SOUND COLOR FX を使う

[COLOR] ツマミに連動して変化するエフェクトです。

1 [SOUND COLOR FX] 選択ボタンのいずれかを押す

エフェクトの種類を選びます。

押したボタンが点滅します。

- すでに[SOUND COLOR FX] 選択ボタンのいずれかが選ばれていても、新たに別の[SOUND COLOR FX] 選択ボタンを選んで押すと、新たに押したボタンが選ばれます。
- エフェクトの種類については、15 ページの「SOUND COLOR FX の種類」をご覧ください。
- [CH1] ~ [CH4] に同じエフェクトが設定されます。

2 [COLOR] ツマミを回す

ツマミを回したチャンネルの音声にエフェクトが加わります。

[PARAMETER] ツマミを回すと、エフェクトの量的パラメーターを調節できます。

❖ SOUND COLOR FX を終了する

点滅している [SOUND COLOR FX] 選択ボタンを押す

エフェクトが解除されます。

BEAT FX を使う

再生中の曲のテンポ (BPM=Beats Per Minute) に合わせたさまざまなエフェクトを瞬時に設定できます。

本体表示部



1	エフェクト表示部	選んでいるエフェクト名が表示されます。
2	AUTO (TAP)	BPM 測定モードがオートモードのとき [AUTO] が点灯します。手動入力モードのとき [TAP] が点灯します。
3	QUANTIZE	QUANTIZE 機能が使えるとき点灯します。QUANTIZE 機能が使えないときは点滅または消灯します。
4	BPM 値表示 (3桁)	オートモードのときは自動で検出した BPM 値を表示します。検出できないときは前回検出した BPM 値で点滅します。手動入力モードのときは手動で入力した BPM 値を表示します。

5	BPM	常時点灯します。
6	ビート / パラメーター表示部	選んでいる拍数の位置に合わせて点灯します。エフェクトによっては [BEAT ◀ ▶] ボタンを押したとき、パラメーターを表示します。パラメーター範囲外が指定されたときは点滅します。
7	タッチ表示部	[X-PAD] に触れた位置を表示します。

1 [AUTO/TAP] ボタンを押す

BPM の測定モードを選びます。

- [AUTO]: 入力されている音声信号から BPM を自動測定します。本機の電源をオンにしたときは、[AUTO] に設定されます。
- [TAP]: BPM を手動で入力します。入力方法については、13 ページの「BPM を手動で入力する」をご覧ください。
- [AUTO] の BPM 測定範囲は BPM=70 ~ 180 です。曲によっては正しく測定できないことがあります。BPM を測定できないときは表示部の BPM 値が点滅します。そのときは [TAP] ボタンを使って手動で入力してください。

2 ビートエフェクト切換スイッチを回す

エフェクトの種類を選びます。

- エフェクトの種類については、15 ページの「BEAT FX の種類」をご覧ください。

3 エフェクトチャンネル切換スイッチを回す

エフェクトを加えるチャンネルを選びます。

エフェクトチャンネル切換スイッチで選択されているチャンネルの [BEAT FX] インジケーターが点灯します。

- [1] ~ [4]: 各チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
- [MIC]: [MIC] チャンネルの音声にエフェクトを加えます。
- [CROSS FADER A], [CROSS FADER B]: クロスフェーダーの [A] (左) 側または [B] (右) 側の音声にエフェクトを加えます。
- [MASTER]: [MASTER] チャンネルの音声にエフェクトを加えます。

4 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す

エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定します。

拍の倍率に対応したエフェクトタイムが自動で設定されます。

5 [FX FREQUENCY] の [HI][MID][LOW] のボタンを押す

エフェクトがかかる音域を選択できます。オンにするとボタンが点灯し、選択した音域にエフェクトがかかります。オフにするとボタンが消灯し、選択した音域にエフェクトがかかりません。

6 [BEAT FX] の [ON/OFF] ボタンを押す

音声にエフェクトがかかります。

[TIME] ツマミを回すと、エフェクトの時間パラメーターを調節できます。

[LEVEL/DEPTH] ツマミを回すと、エフェクトの量的パラメーターを調節できます。

エフェクトをオンにしているとき [ON/OFF] ボタンが点滅します。

- [ON/OFF] ボタンをふたたび押すと、エフェクトがオフになります。

❖ BPM を手動で入力する

再生中の音声の拍 (4分音符) に合わせて [TAP] ボタンを2回以上指でたたく

[TAP] ボタンを指でたたいた間隔の平均値が BPM に設定されます。

- [TAP] ボタンを使って BPM を設定すると拍の倍率は [1/1] に設定され、1拍 (4分音符) の時間がエフェクトタイムに設定されます。
- [TAP] ボタンを押しながら [TIME] ツマミを回すと BPM を手動で設定できます。
- [TAP] ボタンを押しながら [AUTO/TAP] ボタンを押す、2つのボタンを押しながら [TIME] ツマミを回すと BPM を 0.1 単位で設定できます。

[X-PAD] を操作する

❖ 操作手順 ①

1 「BEAT FX を使う」の手順 1 から手順 5 まで操作する

2 [X-PAD] に触れる

[X-PAD] に触れたりなぞったりすることによって、エフェクトのオン/オフの切り換え、および、エフェクトの時間的 / 量的パラメーターの変更の 2 つの操作を行うことができます。

- [X-PAD] から指を離すとエフェクトがオフになります。
- エフェクトをオンのまま [X-PAD] から指を離したいときは、[X-PAD] に触れた状態で [BEAT FX] の [ON/OFF] ボタンを押してから [X-PAD] から指を放してください。

❖ 操作手順 ②

1 「BEAT FX を使う」の手順 1 から手順 6 まで操作する

2 [X-PAD] に触れる

[X-PAD] をなぞることによって、エフェクトの時間的 / 量的パラメーターを変化させることができます。

SEND/RETURN 機能を使う

外部エフェクターまたはモバイルデバイスを使うことができます。

1 本機とエフェクターを接続する

接続の仕方については、10 ページの「出力端子に接続する」をご覧ください。

2 [SEND/RETURN] 切換スイッチを切り換える

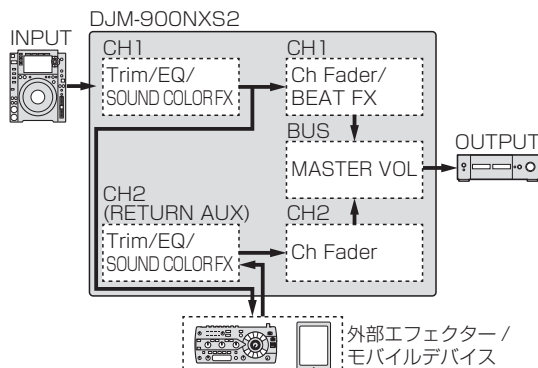
使用するエフェクターを選択します。

- [1/4" JACK] : 外部エフェクターを使うときに選択します。
- [USB] : モバイルデバイスを使うときに選択します。

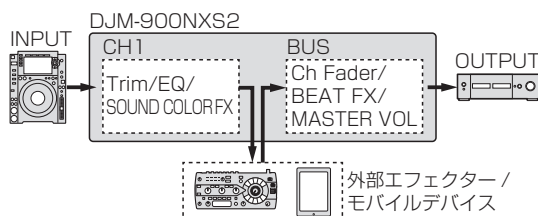
3 [RETURN TYPE] 切換スイッチを切り換える

SEND/RETURN 方式を選択します。

- [AUX] : エフェクトチャンネルで選択したチャンネルの音声が入力され、外部エフェクター（またはモバイルデバイス）に入力され、外部エフェクター（またはモバイルデバイス）の出力が入力切換スイッチで [RETURN AUX] を選択したチャンネルに入力されます。オリジナルの音とエフェクト音を自在に混ぜ合わさることができます。



- [INSERT] : エフェクトチャンネルで選択したチャンネルの音声が入力され、外部エフェクター（またはモバイルデバイス）に入力され、外部エフェクター（またはモバイルデバイス）の出力がエフェクトチャンネルで選択したチャンネルに入力されます。従来の DJM シリーズと同じ方式の SEND/RETURN として使うことができます。



- 詳細は 23 ページの「ブロックダイヤグラム」をご覧ください。

4 エフェクトチャンネル切換スイッチを回す

SEND/RETURN 機能を加えるチャンネルを選びます。

- SEND/RETURN を加えるチャンネルは、BEAT FX を加えるチャンネルと同じチャンネルになります。

5 [SEND/RETURN] の [ON/OFF] ボタンを押す

- [ON/OFF] ボタンをふたたび押すと、SEND/RETURN 機能がオフになります。

6 [SEND/RETURN] の [LEVEL] ツマミを回す

SEND/RETURN の音声レベルを調節します。

以下の場合、SEND/RETURN の ON/OFF ボタンが消灯します。強制的に本機能はオフになり、オン/オフできなくなります。

- 本機とエフェクターが接続されていない場合
- [RETURN TYPE] 切換スイッチが [AUX] を選択していて、なおかつエフェクトチャンネルが [1]、[2]、[3]、[4] のいずれかを選択している状態で、そのエフェクトチャンネルの入力切換スイッチが [RETURN AUX] を選択している場合
- [RETURN TYPE] 切換スイッチが [AUX] を選択していて、なおかつエフェクトチャンネルが [CROSS FADER A] または [CROSS FADER B] を選択している状態で、そのエフェクトチャンネルに [CROSS FADER ASSIGN] スイッチでアサインしているチャンネルの 1 つ以上が [RETURN AUX] を選択している場合
- [RETURN TYPE] 切換スイッチが [AUX] を選択していて、なおかつエフェクトチャンネルが [MASTER] を選択している場合

MIDI を使ってソフトウェアを操作する

本機はボタンやツマミなどの操作情報を汎用の MIDI 形式で出力します。

MIDI 対応のソフトウェアをインストールしたコンピュータまたはモバイルデバイスで、USB ケーブルを使って接続すると、本機でソフトウェアを操作できます。

お使いのコンピューターまたはモバイルデバイスに、あらかじめソフトウェアをインストールしてください。また、ソフトウェアのオーディオおよび MIDI に関する設定も行ってください。

- MIDI チャンネルの設定方法については、18 ページの「設定を変更する」をご覧ください。
- 本機の MIDI メッセージについては、以下のウェブサイトでご確認ください。

<http://pioneerdj.com/support/>

1 本機とコンピューターまたはモバイルデバイスを接続する

- コンピューター : [USB] 端子にコンピューターを接続します。
- モバイルデバイス : モバイルデバイス接続用端子にモバイルデバイスを接続します。

接続方法については、10 ページの「操作パネルに接続する」をご覧ください。

2 ソフトウェアを起動する

- コンピューターを接続している場合は、次の手順も行ってください。モバイルデバイスを接続しているときは、次の手順を行う必要はありません。

3 [ON/OFF] ボタンを押す

MIDI をオンにします。

MIDI メッセージの送信を始めます。

- フェーダーやツマミを動かすと、その位置に応じたメッセージを送信します。
- [ON/OFF] ボタンをふたたび押すと、MIDI メッセージの送信を止めます。
- MIDI タイミングクロック (BPM 情報) は [ON/OFF] ボタンに関係なく送信されます。
- モバイルデバイスの場合は、常時 MIDI メッセージと MIDI タイミングクロックが送信されます。

エフェクトの種類

SOUND COLOR FX の種類

エフェクト名	説明	[COLOR] ツマミ	[PARAMETER] ツマミ
SPACE	原音に残響効果を加えます。	左回し：中・低音域に残響効果を加えます。 右回し：中・高音域に残響効果を加えます。	右に回すほどフィードバックが増えます。
DUB ECHO	元の音声より少し遅れた音を減衰させながら数回出力し反響効果を加えます。	左回し：中音域だけに反響効果を加えます。 右回し：高音域だけに反響効果を加えます。	右に回すほどフィードバックが増えます。
SWEEP	左に回すとゲートの効果が得られ、右に回すとバンドパスフィルターの効果が得られます。	左回し：ゲート効果によって音がタイトになり、音量感が減ります。 右回し：バンドパスフィルターの帯域幅が徐々に狭くなります。	[COLOR] ツマミを左に回した場合は、ゲート効果を調整できます。 右に回すほど音がタイトになります。 [COLOR] ツマミを右に回した場合は、中心周波数を調整できます。 右に回すほど中心周波数が上がります。
NOISE	本機内部で発生させたホワイトノイズをフィルターを通してからチャンネルの音声とミックスして出力します。	左回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。	右に回すほどホワイトノイズの音量が増えます。 • [EQ/ISO (HI. MID. LOW)] ツマミを回して音質を調整できます。
CRUSH	元の音声を壊したような音に変化させて出力します。	左回し：音声のひずみが増します。 右回し：音声を壊してからハイパスフィルターを通過させます。	右に回すほど効果が強調されます。
FILTER	フィルターを通した音声を出力します。	左回し：ローパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ハイパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。	右に回すほどレゾナンスが増えます。

BEAT FX の種類

DELAY^①

[BEAT ◀ ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を 1 回出力します。

- チャンネルフェーダーを下げて入力音を切るとディレイ音が残ります。

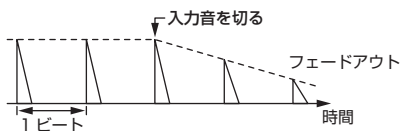


BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のディレイタイムを設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	ディレイタイムを設定します。 1 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とディレイ音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	ディレイタイムを設定します。

ECHO^①

[BEAT ◀ ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を減衰させながら数回出力します。

- チャンネルフェーダーを下げて入力音を切るとエコー音が残りフェードアウトします。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のディレイタイムを設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	ディレイタイムを設定します。 1 ~ 4000 (ms)

LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)

原音とエコー音のバランスを設定します。

X-PAD (パラメーター 4)

ディレイタイムを設定します。

PING PONG^①

[BEAT ◀ ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて左右でディレイタイムの異なるディレイ音を減衰させながら数回出力し、ステレオ感のある効果が得られます。

- チャンネルフェーダーを下げて入力音を切るとエコー音が残りフェードアウトします。

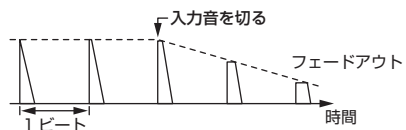
BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のディレイタイムを設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	ディレイタイムを設定します。 1 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエコー音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	ディレイタイムを設定します。

SPIRAL^①

入力音に残響効果を加えます。

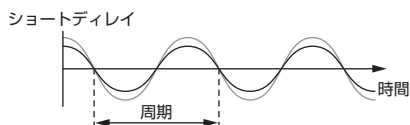
ディレイタイムを変化させたとき、同時に音程も変化します。

- チャンネルフェーダーを下げて入力音を切るとエフェクト音が残りフェードアウトします。



BEAT ◀ ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のディレイタイムを設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	ディレイタイムを設定します。 10 ~ 4000 (ms)

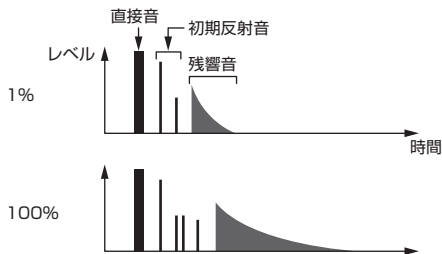
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスとフィードバックを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	ディレイタイムを設定します。



REVERB^①

入力音に残響効果を加えます。

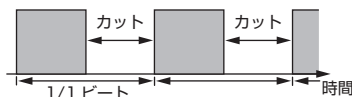
- チャンネルフェーダーを下げて入力音を切ると残響音が残ります。



BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	残響効果の程度を 1 ~ 100 % の間で設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	残響効果の程度を設定します。1 ~ 100 (%)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	フィルターのカットオフ周波数を設定します。

TRANS

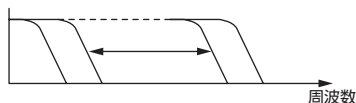
[BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて音をカットします。



BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍の時間を設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	エフェクト時間を設定します。10 ~ 16000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスとデューティを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	カット時間を設定します。

FILTER

[BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてフィルターのカットオフ周波数が変化します。



BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	カットオフ周波数を移動させる周期を BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 64 拍の時間で設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	カットオフ周波数が移動する周期を設定します。10 ~ 32000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	左に回しきると原音だけ出力されます。右に回すほど効果が強調されます。
X-PAD (パラメーター 4)	カットオフ周波数を移動させる周期を細かく揺らします。

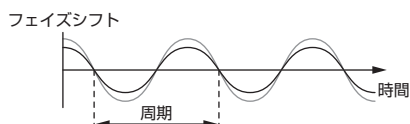
FLANGER

[BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて 1 周期のフランジャー効果を作り出します。

BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 64 拍のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	フランジャー効果が移動する周期を設定します。10 ~ 32000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	右に回すほど効果が強調されます。左に回しきると原音だけ出力されます。
X-PAD (パラメーター 4)	フランジャー効果が移動する周期を細かく揺らします。

PHASER

[BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてフェイザー効果が変化します。



BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	フェイザー効果を移動させる周期を BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 64 拍の時間で設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	フェイザー効果が移動する周期を設定します。10 ~ 32000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	右に回すほど効果が強調されます。左に回しきると原音だけ出力されます。
X-PAD (パラメーター 4)	フェイザー効果が移動する周期を細かく揺らします。

PITCH

原音の音程を変化させます。

BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	エフェクト音の音程を設定します。-50 ~ 100 (%)
TIME ツマミ (パラメーター 2)	エフェクト音の音程を設定します。-50 ~ 100 (%)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	エフェクト音の音程を設定します。左に回し切ると原音に戻ります。
X-PAD (パラメーター 4)	エフェクト音の音程を設定します。

SLIP ROLL

[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。

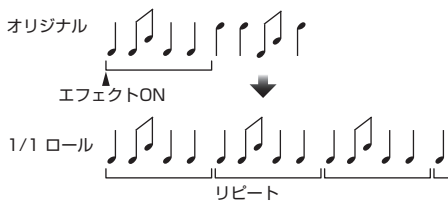
エフェクト時間が変わると入力音を再び記録します。



BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	エフェクト時間を設定します。10 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音と ROLL 音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	エフェクト時間を設定します。

ROLL

[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。



BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	エフェクト時間を設定します。 10 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音と ROLL 音のバランスを設定します。
X-PAD (パラメーター 4)	エフェクト時間を設定します。

VINYL BRAKE

[BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて入力音の再生速度が徐々に遅くなり、再生が止まります。

BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	エフェクト時間を設定します。 10 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	入力音の再生速度を設定します。左に回し切ると徐々に原音に戻ります。左回し切りから右に回すことでも徐々に再生速度を遅くし、再生を止めるエフェクト効果が得られます。
X-PAD (パラメーター 4)	エフェクト時間を設定します。

HELIX

[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [BEAT ◀▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。

[LEVEL/DEPTH] ツマミを左回し切りから右に回すことでも入力音を記録できます。また右回し切りにする事で出力音が固定されます。エフェクト時間が変わると、それまでに記録された音の音程が変化します。

BEAT ◀▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/16 ~ 16 拍のエフェクト時間を設定します。
TIME ツマミ (パラメーター 2)	エフェクト時間を設定します。 10 ~ 4000 (ms)
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	音を重ねる割合を設定します。左に回し切ると原音に戻ります。左回し切りから右に回すと入力音を再び初期状態から記録します。
X-PAD (パラメーター 4)	エフェクト時間を設定することで音程を変化させます。X-PAD から指を離すと設定したエフェクト時間に自動で戻ります。

- ① エフェクトチャンネル切換スイッチで、[1] ~ [4] を選んでいるとき、選んだチャンネルの [CUE] ボタンを押してもエフェクト音はモニターできません。

設定を変更する

- 「設定項目一覧」は、20 ページをご覧ください。

変更の手順

1 [QUANTIZE (UTILITY, WAKE UP)] ボタンを 1 秒以上押す

[UTILITY] 画面が表示されます。

2 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す

設定項目を選びます。

3 [TAP] ボタンを押す

設定項目の詳細設定項目が表示されます。

4 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す

詳細設定項目を選択します。

5 [TAP] ボタンを押す

詳細設定項目の設定値変更画面が表示されます。

6 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す

設定値を変更します。

7 [TAP] ボタンを押す

設定値を決定します。


元の画面に戻ります。

- 設定値を変更しないまま元の画面に戻るときは [AUTO/TAP] ボタンを押します。

8 [QUANTIZE (UTILITY, WAKE UP)] ボタンを押す

[UTILITY] 画面を閉じます。

[] が付いている設定項目について

設定項目 [LOCK] を [OFF] にすることにより、[] の項目を変更することができます。

- [UTILITY] 画面を閉じると、[LOCK] は [ON] に戻ります。

初期設定値に戻す

1 [QUANTIZE (UTILITY, WAKE UP)] ボタンを押しながら [POWER] ボタンを押す

[FACTORY RESET] モードが表示されます。

2 [BEAT ◀, ▶] ボタンを押す

[YES] を選びます。

3 [TAP] ボタンを押す

設定値を決定します。

4 [POWER] ボタンを押す

本機の電源をオフにします。

オートスタンバイ機能について

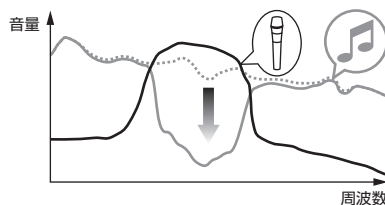
[AUTO STANDBY] を [ON] に設定しているとき、以下の条件をすべて満たしたまま 10 時間を過ぎると自動的にスタンバイ状態になります。

- 本機のボタンやツマミなどを操作していない。
- 本機各チャンネルに音声信号が入力されない。
- PRO DJ LINK 接続していない。
- [QUANTIZE (UTILITY, WAKE UP)] ボタンを押すとスタンバイ状態が解除されます。
- 本機は、オートスタンバイ機能をオンに設定して出荷しています。オートスタンバイ機能をお使いにならないときは、[AUTO STANDBY] を [OFF] に設定してください。

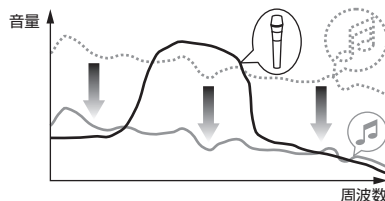
トークオーバー機能について

トークオーバー機能には、以下 2 つのモードがあります。

- [ADVANCED] (アドバンスド・トークオーバー) : [MIC] チャンネル以外の音声は [LEVEL] の設定値に従って、中音域だけ減衰して出力されます。



- [NORMAL] (ノーマルトークオーバー) : [MIC] チャンネル以外の音声は、[LEVEL] の設定値に従って減衰して出力されます。



設定ユーティリティについて

設定ユーティリティを使って以下の内容を確認および設定できます。

- 本機の入力切替スイッチの状態を確認する
- 本機からコンピューターへの音声データ出力を設定する
- バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)
- ファームウェアとドライバーソフトウェアのバージョンを確認する

設定ユーティリティを表示する

Windows のとき

[スタート]メニュー > [すべてのプログラム] > [Pioneer] > [DJM-900NXS2] > [DJM-900NXS2 設定ユーティリティ] をクリックする

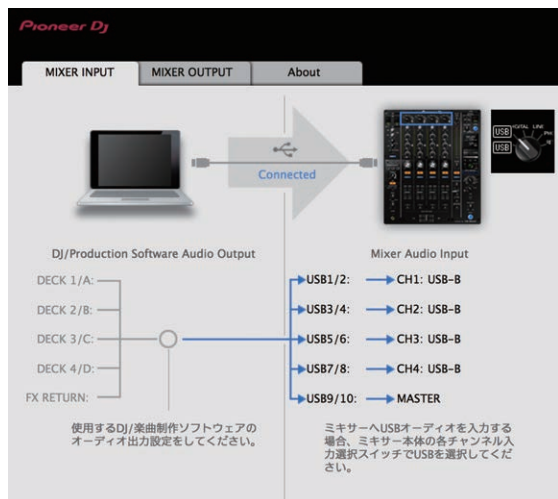
Mac OS X のとき

[Macintosh HD] アイコン > [Application] > [Pioneer] > [DJM-900NXS2] > [DJM-900NXS2 設定ユーティリティ] をクリックする

本機の入力切替スイッチの状態を確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

[MIXER INPUT] タブをクリックする

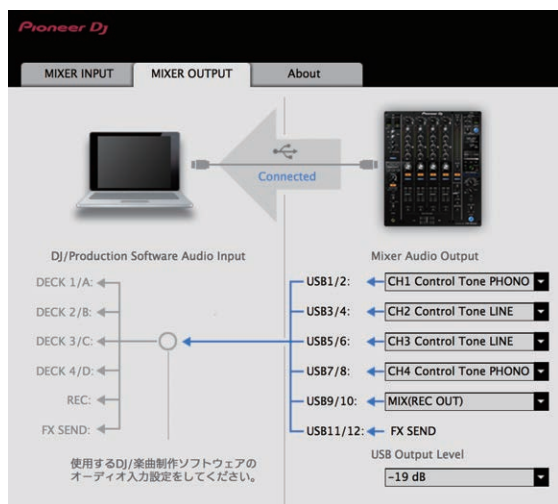


FX RETURN は対応ソフトウェアで使用可能です。

本機からコンピューターへの音声データ出力を設定する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする



2 [Mixer Audio Output] のプルダウンメニューをクリックする

本機内部の音声信号の流れの中から、コンピューターへ出力する音声データを選んで設定します。

- 「[Mixer Audio Output] のプルダウンメニュー一覧」は、20ページをご覧ください。

3 [USB Output Level] のプルダウンメニューをクリックする

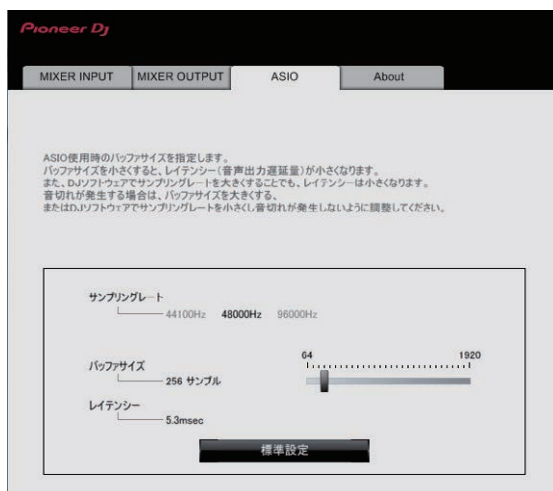
本機から出力される音声データの音量を調節します。

- [USB Output Level] の設定はすべての音声データに対して共通です。ただし、手順2の表の□を選んでいるときは本機に入力された音量のまま出力されます。
- DJソフトウェアの音量調節だけで十分な音量が得られないときは、[USB Output Level] を変更して本機から出力される音声データの音量を調節してください。音量を上げすぎると音声が歪むことがありますのでご注意ください。
- [FX SEND]、[Control Tone] は対応ソフトウェアで使用可能です。

バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)

本機を既定のオーディオデバイスとして使っているアプリケーション (DJソフトウェアなど) が起動しているときは、そのアプリケーションを終了させてからバッファサイズを調整してください。あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

[ASIO] タブをクリックする

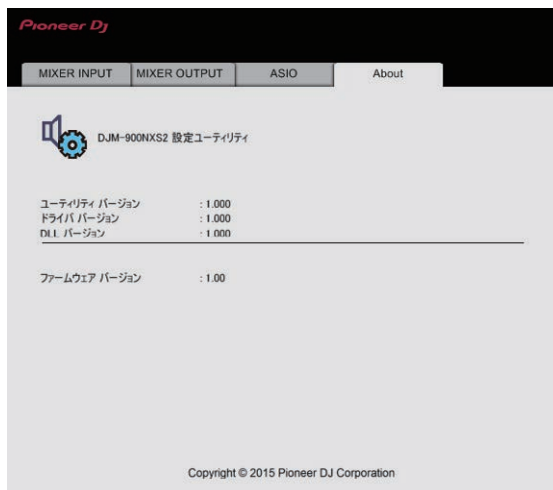


- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落 (音とぎれ) などが生じにくくなりますが、音声データの伝送遅延 (レイテンシー) によるタイムラグが増大します。

ファームウェアとドライバーソフトウェアのバージョンを確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

[About] タブをクリックする



ドライバーソフトウェアの最新情報を確認する

本機の専用ドライバーソフトウェアの最新情報については、下記の Pioneer DJ サイトを参照してください。

<http://pioneerdj.com/support/>

- 1台のコンピューターに本機を複数台接続したときは、動作を保証できません。

[Mixer Audio Output] のプルダウンメニュー一覧

CH1 (USB1/2)	CH2 (USB3/4)	CH3 (USB5/6)	CH4 (USB7/8)	CH5 (USB9/10)	CH6 (USB11/12)
CH1 Control Tone PHONO ^①	CH2 Control Tone PHONO ^①	CH3 Control Tone PHONO ^①	CH4 Control Tone PHONO ^①	MIX (REC OUT) ^②	FX SEND ^③
CH1 Control Tone CD/LINE ^①	CH2 Control Tone CD/LINE ^①	CH3 Control Tone CD/LINE ^①	CH4 Control Tone CD/LINE ^①	Post CH1 Fader ^②	—
CH1 Control Tone DIGITAL ^①	CH2 Control Tone DIGITAL ^①	CH3 Control Tone DIGITAL ^①	CH4 Control Tone DIGITAL ^①	Post CH2 Fader ^②	—
Post CH1 Fader ^②	Post CH2 Fader ^②	Post CH3 Fader ^②	Post CH4 Fader ^②	Post CH3 Fader ^②	—
CROSS FADER A ^②	CROSS FADER A ^②	CROSS FADER A ^②	CROSS FADER A ^②	Post CH4 Fader ^②	—
CROSS FADER B ^②	CROSS FADER B ^②	CROSS FADER B ^②	CROSS FADER B ^②	CROSS FADER A ^②	—
MIC	MIC	MIC	MIC	CROSS FADER B ^②	—
MIX (REC OUT) ^②	MIX (REC OUT) ^②	MIX (REC OUT) ^②	MIX (REC OUT) ^②	MIC	—


① 対応ソフトウェアで使用可能です。[USB Output Level] の設定に関係なく本機に入力された音量のまま出力されます。


② 録音用途以外で使うときは、音声のループが発生しないよう DJ アプリケーションの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入出力される可能性があります。

③ 対応ソフトウェアで使用可能です。

設定項目一覧

*：お買い上げ時の設定



設定項目	詳細設定項目	設定値	説明
MASTER OUT	PEAK LIMITER ^①	OFF、ON*	マスター出力の急激で不快なデジタルクリップの発生を緩和します。
	ATT. ^①	-12 dB、-9 dB、-6 dB、-3 dB、0 dB*	[MASTER1] 端子および [MASTER2] 端子から出力される音声の減衰レベルを設定します。
	MONO/STEREO ^①	MONO、STEREO*	マスター出力音声のモノラル/ステレオを選びます。
DIGITAL MASTER OUT	LEVEL ^①	-19 dB*、-15 dB、-10 dB、-5 dB	[DIGITAL MASTER OUT] 端子から出力される音声の最大音声レベルを設定します。 ^②
	SAMPLING RATE ^①	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz*	デジタル信号のサンプリングレートを設定します。
	PEAK LIMITER ^①	OFF、ON*	デジタルマスター出力の急激で不快なデジタルクリップの発生を緩和します。
	MONO/STEREO ^①	MONO、STEREO*	デジタルマスター出力音声のモノラル/ステレオを選びます。
BOOTH OUT	ATT. ^①	-12 dB、-9 dB、-6 dB、-3 dB、0 dB*	[BOOTH] 端子から出力される音声の減衰レベルを設定します。
	MONO/STEREO ^①	MONO、STEREO*	ブース出力音声のモノラル/ステレオを選びます。
MIC OUT TO MASTER	PEAK LIMITER THRESHOLD LEVEL ^①	0 dB、3 dB、6 dB、9 dB、12 dB、15 dB、OFF*	マスター出力に足されるマイク音声のリミッターを設定します。
MIC OUT TO BOOTH	LEVEL ^①	OFF、-18 dB、-15 dB、-12 dB、-9 dB、-6 dB、-3 dB、0 dB*	ブース出力に足されるマイク音声レベルを設定します。
	PEAK LIMITER THRESHOLD LEVEL ^①	0 dB、3 dB、6 dB、9 dB、12 dB、15 dB、OFF*	ブース出力に足されるマイク音声のリミッターを設定します。
MIC LOW CUT	—	OFF、ON*	マイク音声の低音域をカットする機能をオン/オフします。
TALK OVER	MODE	ADVANCED*、NORMAL	トークオーバー機能のモードを [ADVANCED] または [NORMAL] から選びます。
	LEVEL	-24 dB、-18 dB*、-12 dB、-6 dB	トークオーバー機能の音声減衰レベルを設定します。
MIDI	CH	1* ~ 16	MIDI チャンネルを設定します。
	BUTTON TYPE	TOGGLE*、TRIGGER	MIDI 信号の送信の仕方を [TOGGLE] または [TRIGGER] から選びます。
OLED BRIGHTNESS	—	1 ~ 3*	本体表示部の明るさを設定します。
PC UTILITY ^①	—	OFF*、ON	USB ケーブルを接続したとき、コンピューターの設定ユーティリティソフトウェアを自動起動する/自動起動しないを設定します。
AUTO STANDBY ^①	—	OFF、ON*	オートスタンバイ機能をオン/オフします。
LOCK	—	OFF、ON*	 が付いている設定項目の変更不可設定をオン/オフします。

① 通常は  が表示され、設定値は変更できません。変更するときは、[LOCK] を [OFF] にしてから変更してください。

② マスターレベルインジケーターが一番上まで点灯してなくても、出力音声が変わることがありますのでご注意ください。

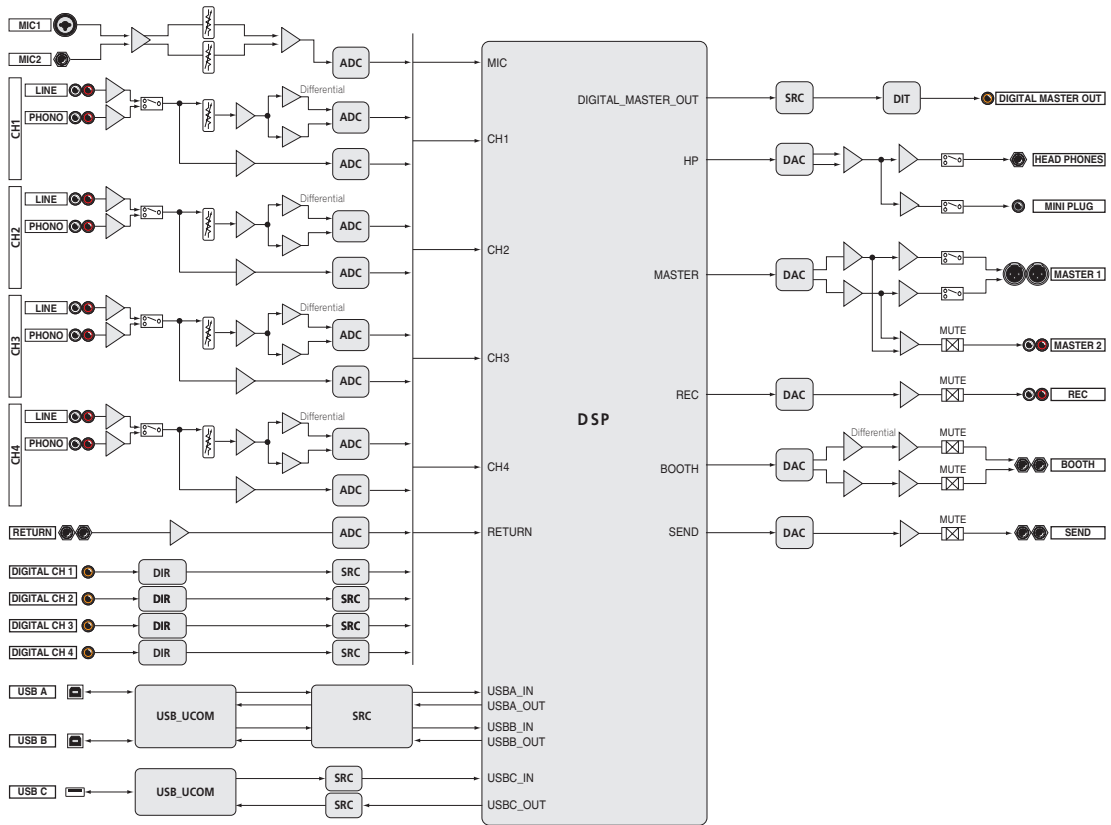
故障かな？と思ったら

- 故障かな？と思ったら、下記の項目および Pioneer DJ サポートページの [FAQ/DJ ソフトウェア等のサポート情報] へアクセスして、[DJM-900NXS2] の [よくある質問] を確認してください。
<http://pioneerdj.com/support/>
 また、本機と接続している機器もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは、24 ページの「保証とアフターサービス」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。
- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、電源コードを一度抜いて差し込み直すことで正常に動作することがあります。

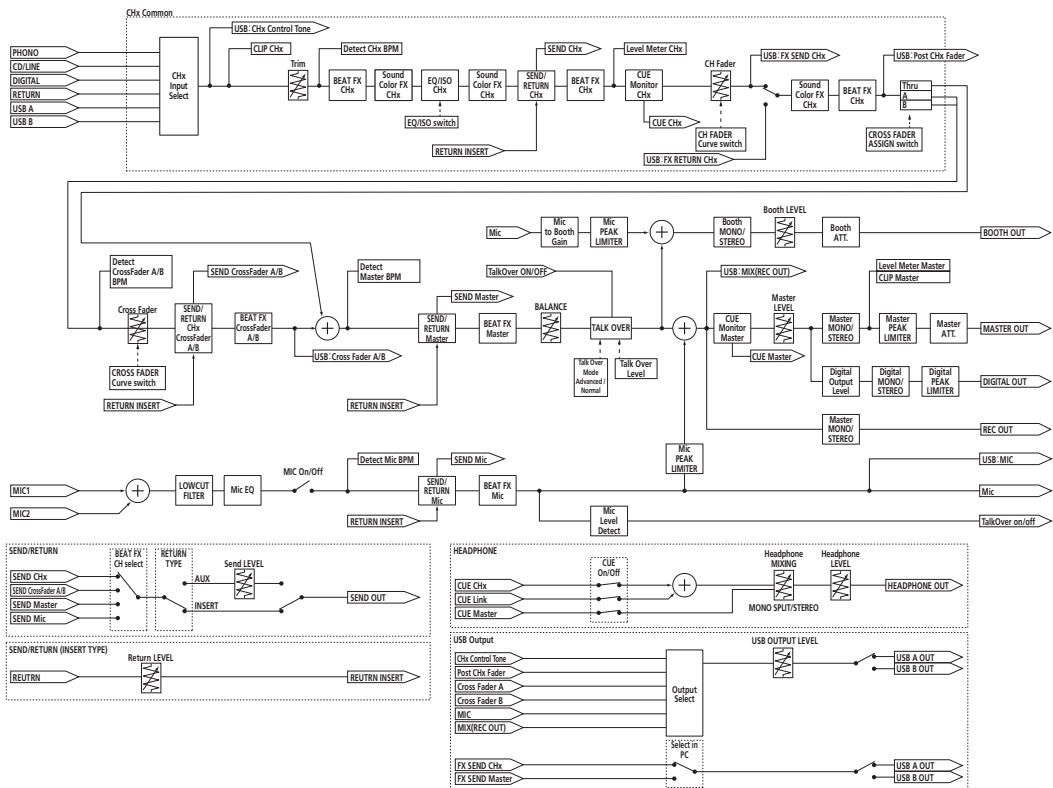
こんなときは	ここを確認してください	対応の仕方
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていますか？	電源コードをコンセントへ接続してください。
音が出ない、または音が小さい。	入力切替スイッチの位置が正しく設定されていますか？	入力切替スイッチを切り換えて、チャンネルの入力ソースを切り換えてください。(11 ページ)
	接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続ケーブルを正しく接続してください。(9 ページ)
	端子やプラグが汚れていませんか？	端子やプラグの汚れを拭き取ってから接続してください。
デジタル音声が出力できない。	[MASTER OUT] の [ATT.] が [-6 dB] などに設定されていませんか？	[UTILITY] 画面で [MASTER OUT] の [ATT.] を切り換えてください。
	デジタル音声出力のサンプリング周波数 (fs) が、接続機器の仕様と合っていますか？	[UTILITY] 画面で [DIGITAL MASTER OUT] の [SAMPLING RATE] を接続機器の仕様に合わせて設定してください。
音がひずむ。	[MASTER] チャンネルから出力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	マスターチャンネルレベルインジケータの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [MASTER LEVEL] ツマミを調整してください。(11 ページ)
	各チャンネルに入力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	[UTILITY] 画面で、[MASTER OUT] の [ATT.] を [-3 dB] ~ [-12 dB] に設定してください。
クロスフェードできない。	[CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切替スイッチが正しく設定されていますか？	チャンネルレベルインジケータの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ツマミを調整してください。(11 ページ)
		各チャンネルの [CROSS FADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切替スイッチを正しく設定してください。(11 ページ)
BEAT FX が効かない。	エフェクトチャンネル切替スイッチが正しく設定されていますか？	エフェクトチャンネル切替スイッチを回して、エフェクトを加えたいチャンネルを選んでください。
	[FX FREQUENCY] ボタンは正しく設定されていますか？	エフェクトをかけたい帯域の [FX FREQUENCY] ボタンを押して、点灯させてください。
SOUND COLOR FX が効かない。	[COLOR] ツマミを適切な位置に設定していますか？	[COLOR] ツマミを左右に回してください。(13 ページ)
外部エフェクターが効かない。	エフェクトチャンネル切替スイッチが正しく設定されていますか？	エフェクトチャンネル切替スイッチを回して、エフェクトを加えたいチャンネルを選んでください。
	[SEND/RETURN ON/OFF] ボタンが [ON] に設定されていますか？	[SEND/RETURN ON/OFF] ボタンを押して [SEND/RETURN] を [ON] にしてください。(14 ページ)
	[SEND] 端子および [RETURN] 端子に外部エフェクターが正しく接続されていますか？	[SEND] 端子および [RETURN] 端子に外部エフェクターを接続してください。
	モバイルデバイス接続用端子にモバイルデバイスが正しく接続されていますか？	モバイルデバイス接続用端子にモバイルデバイスを接続し対応するアプリを起動してください。
外部エフェクターの音が歪む。	[RETURN TYPE (AUX, INSERT)] 切替スイッチは正しく設定されていますか？	[RETURN TYPE (AUX, INSERT)] 切替スイッチを正しく設定してください。
	[SEND/RETURN (1/4" JACK, )] 切替スイッチは正しく設定されていますか？	[SEND/RETURN (1/4" JACK, )] 切替スイッチを正しく設定してください。
	外部エフェクターの音声出力レベルは適切に設定されていますか？	外部エフェクターの音声出力レベルを調整してください。
テンポ (BPM) が測定できない、またはテンポ (BPM) の測定値がおかしい。	音声入力レベルが高すぎませんか？ または音声入力レベルが低すぎませんか？	チャンネルレベルインジケータの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ツマミを調整してください。(11 ページ) 曲によってはテンポ (BPM) が測定できない場合があります。[TAP] ボタンを使って手動でテンポを入力してください。
測定したテンポ (BPM) の値が CD の記載値と異なる。	—	BPM の測定法が違うため、多少異なった値を示すことがあります。
MIDI コントロールできない。	MIDI がオンになっていますか？	[MIDI] の [ON/OFF] ボタンを押してください。
	MIDI 設定が正しく設定されていますか？	本機でソフトウェアを操作するときは、本機の MIDI メッセージをお使いのソフトウェアにアサインする必要があります。アサイン方法については、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
コンピューターに接続しても本機が認識されない。USB インジケータが消灯または点滅している。	コンピューターにドライバソフトウェアが正しくインストールされていますか？	ドライバソフトウェアをインストールしてください。インストール済みのときは、再度インストールしてください。

こんなときは	ここを確認してください	対応の仕方
コンピューターの音声が本機から出力されない。	本機とコンピューターが正しく接続されていますか？	本機とコンピューターは付属の USB ケーブルで直接接続してください。(9 ページ)
	音声出力デバイス設定が正しく設定されていますか？	音声出力デバイス設定で本機を選んでください。お使いのアプリケーションの設定方法については、お使いのアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。
	入力切替スイッチの位置が正しく設定されていますか？	入力切替スイッチを [USB] の位置に設定してください。(11 ページ)
アナログプレーヤーを本機の [PHONO] 端子に接続すると音が歪む。 また、 [TRIM] ツマミを回してもチャンネルレベルインジケータの点灯が変わらない。	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーを接続していませんか？	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーは [LINE] 端子に接続してください。(9 ページ)
	アナログプレーヤーと本機の間コンピューター用のオーディオインターフェイスが接続されていませんか？	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーに PHONO/LINE 切替スイッチがあるときは、PHONO に切り換えてください。
		コンピューター用のオーディオインターフェイスの出力がラインレベルのときは、 [LINE] 端子に接続してください。(9 ページ)
		アナログプレーヤーに PHONO/LINE 切替スイッチがあるときは、PHONO に切り換えてください。

ブロックダイアグラム



その他



保証とアフターサービス

修理に関するご質問、ご相談

「取扱説明書(クイックスタートガイド)」の巻末に記載の修理受付窓口、またはお買い求めの販売店にご相談ください。

保証書(取扱説明書(クイックスタートガイド)の裏表紙に記載)

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。保証書に販売店名や購入日の記載がない場合は、本製品のご購入の際に受け取られた、購入日が明記されている購入証明書(レシート、納品書、受注メールなど)が必要となります。保証書とともに大切に保管してください。

保証期間は購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼される時

本製品の取扱説明書をお読みいただき、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しないときには、必ず電源プラグを抜いてから、次の要領で修理を依頼してください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名: DJ ミキサー
- 型番: DJM-900NXS2
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容
「いつ、どのくらいの頻度で、どのような操作(使用したディスクも)で、どうなる」といった詳細

保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

商標および登録商標について

- 「Pioneer DJ」は、パイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。その他記載されている会社名および製品名等は、各社の登録商標または商標です。

著作権についてのご注意

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- CDなどから録音される音楽は、各国の著作権法ならびに国際条約で保護されています。また、録音した者自身が、それを合法的に使用するうえでのすべての責任を負います。
- インターネットなどからダウンロードされる音楽を取り扱う際は、ダウンロードした者自身が、ダウンロードサイトとの契約に則ってそれを使用するうえでのすべての責任を負います。

ソフトウェアのライセンスに関するお知らせ

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾(ライセンス)について記載しています。正確な内容を保持するため、原文(英語)を記載しています。

Copyright © 2010 Texas Instruments Incorporated - <http://www.ti.com/>
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
Neither the name of Texas Instruments Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS «AS IS» AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

© 2015 Pioneer DJ 株式会社 禁無断転載
<DRJ1039-A>